

2026年度全日本オリエンテーリング選手権大会 安全対策に関して

2026年6月30日 日本オリエンテーリング協会
全日本オリエンテーリング大会委員会

1. 趣旨と背景

2025年度の全日本ミドルロングにおいて発生した80代競技者の遭難死亡事故は、マスメディアでも取り上げられることとなり、当協会及びオリエンテーリング愛好者へ大きな衝撃を与えました。事故調査報告書では、ベテランの競技者であっても突発的な身体的・心理的異変により、通常の判断力を失うリスクが指摘されています。当協会は、競技者個人の安全確保はもちろんのこと、「オリエンテーリングというスポーツの存続と、コミュニティ全体を守る」という強い決意のもと、本大会において特別な安全措置を講じることといたしました。

2. 安全対策の決定事項

本大会では、安全管理体制の強化を目的として、**70歳以上の全ての競技者**に対し、位置探索サービス「ココヘリ」の携帯を必携（義務）とします。また、70歳未満の競技者に対しても、携帯を強く推奨します。

3. 競技者の皆様へ：ココヘリ必携化について

ココヘリでできること

ココヘリは、専用受信機によって発信機の位置を探索できるサービスです。万が一、競技者が未帰還となった場合に、探索範囲を絞り込み、発見までの時間短縮を図ることができます。

一方で、ココヘリは道迷いを防止するものではなく、事故や体調不良そのものを防ぐ装備でもありません。安全確保の基本は、競技者自身による適切な判断と行動にあります。

70歳以上を必携とした理由

2025年度全日本ミドル・ロングにおける事故を受け、当協会では安全対策のあり方を検討してきました。一般に山岳活動においては、高齢になるほど事故発生時の重症化リスクが高まることが知られています（※1,2）。また、体力や判断力の変化、突発的な体調不良のリスク（※3）も考慮し、万が一の際に迅速な搜索を実施できる体制を整えることが必要であると判断しました。

その結果、本大会では70歳以上の競技者についてココヘリを必携とすることとしました。

4. 運用の詳細

エントリー時にマイココヘリ所有者についてはココヘリIDの登録を求め、万が一の未帰還発生時に、主催者側が即座にサーチ（位置把握）を開始できる体制を整えます。本措置は昨年事故直後

という事情に基づく「今年限りの特別措置」となる可能性があります。本大会での運用結果を検証し、次年度以降の「自律」と「安全」の最適なバランスを継続的に模索してまいります。

5. 競技者の皆様へ:オリエンテーリングにおける自律的な安全管理について

オリエンテーリングにおける安全の基本

オリエンテーリングは、自ら状況を判断し、自らの責任で行動するスポーツです。事故調査報告書においても、「自分の安全は自分で守る」という意識の重要性が指摘されています。

ココヘリは安全対策の一つですが、それだけで安全が確保されるわけではありません。競技者一人ひとりが適切な判断を行い、安全にフィニッシュへ帰還することが何より重要です。

徹底すべき安全行動

- 「最大競技時間」の厳守

フィニッシュ閉鎖時刻はフィニッシュ運営の終了時刻であり、最大競技時間とは異なります。競技者は最大競技時間内に必ずフィニッシュを通過するか、運営者へ連絡してください。帰還や連絡が確認できない場合は、搜索の対象となります。

- 「地図外」への逸脱防止

地図に記載されていない範囲へ踏み込むことは極めて危険です。主催者側でも「安全回路(道路や明瞭な特徴物)」と「安全な脱出方向」を設定しますが、常に現在地を把握し、大きく迷ったと判断した際には、無理に継続せず「安全回路」や「安全な脱出方向」を意識して地図内に留まってください。

- 緊急時に備えた装備の携行

万が一に備え、以下の装備の携行を推奨します。

- ・ホイッスル(笛)

軽量で確実な救助要請手段です。緊急時は「6回吹き、1分休む」を繰り返してください。

- ・通信手段(スマートフォン等)

緊急時の連絡手段として有効です。本大会では一定の条件のもとで携行を認め、非常時の連絡手段としての活用を推奨します。

70歳未満の競技者へのお願い

ココヘリは70歳以上の競技者について必携としますが、70歳未満の競技者にも強く携行を推奨します。年齢にかかわらず、負傷や体調不良、道迷いなどのリスクは存在します。未帰還者が発生した場合、ココヘリは搜索の迅速化に有効な手段となります。

安全管理は競技者自身の備えを基本としつつ、ココヘリを含む複数の安全対策を組み合わせることとで、より安全な大会運営を目指します。

参考:ココヘリ携行に対する考え方

今回の措置の検討にあたっては、オリエンテーリングが持つ「自律性」を尊重することを重視しました。より厳格な措置として、全員必携とすることも選択肢にありましたが、本競技は、自ら判断し、自らの責任で行動することを大切にするスポーツです。そのため、主催者による安全対策は、競技者の主体的な判断を置き換えるものではなく、それを補完するものであるべきと考えています。

ココヘリも同様に、自律的な安全管理を支えるための補助的な安全装備として位置付けています。本措置は、昨年事故を受けた安全対策の一環として導入するものです。本大会での運用結果を検証しながら、自律性と安全確保の適切なバランスを継続的に検討してまいります。

(※1) 出典: 政府広報オンライン(山岳遭難防止に関する記事)

(※2) 出典: 総務省統計局(社会生活基本調査からみる登山・ハイキングの結果)

(※3) 出典: 人口動態調査 人口動態統計 確定数 死亡(2024年)